

官民共創の新しいまちづくり協議会 議事概要

会議名	第 2 回官民共創の新しいまちづくり協議会			
開催日	2025 年 2 月 6 日(木)			
開催時間	開会	18:30	閉会	20 : 00
開催場所	伊那市役所 1 階多目的ホール			
出席者				
協議会・WG メンバー	三澤俊明氏、平賀研也氏、平賀裕子氏、黒河内貴氏、高橋明星氏、須永次郎氏、山本風音氏、須永理葉氏、志知貴文氏、鈴木孝之氏、政金裕太氏、土田智氏、瀧内貫氏			
事務局・職員	白鳥市長、伊藤副市長 企画部：飯島部長、織井企画政策課長、田中地域創造課長、有賀企画政策課長補佐、村田新産業技術推進係長、浦野地域ブランド推進係長、飯島まちづくり推進係長、福原、仲村、川田、政金 商工観光部：重盛部長、柴商工振興課長、林商工振興課長補佐 建設部：橋爪部長、柴田参事、原都市整備課長、辰ノ口伊那北駅周辺整備係長 教育委員会：唐澤学校教育課長、伊藤学校教育課長補佐			
関係者	上伊那地域振興局：企画振興課 飯島恵子課長補佐 伊那市新産業技術推進協議会：栗林秀吉会長			
欠席者	田畑和輝氏、笠井成樹氏、北原俊文氏、吉岡秀幸氏、大塚純氏、細谷啓太氏			
議事	1、市長あいさつ 2、地域ブランディング事業について 3、キックオフイベントの振り返り ・全体振り返り ・実施結果の共有 ・意見交換 4、その他			

議事項目	概要	次のステップ
1、市長あいさつ		
キックオフイベントを終えて	○白鳥市長より ・キックオフイベントを経て、いよいよ伊那市の皆さんが主役のまちづくりが動き出してきた。 ・メンバーの皆さんには、昨年の 9 月の発足からご準備いただき、対話の第 1 歩を踏み出せたことに感謝申し上げます。	・

今後のまちづくりの共通認識について	・まちづくりにおいて共通認識を持つことが重要。 ・伊那市では、一次産業を中心として、食と水とエネルギーこれを自分たちでつくって自活できる地方都市を目指している。 ・循環型社会の基礎は森であるということ、今こそ森に着目し、回帰し、森に学ぶ時代に入っている。 ・新しい生活、ライフスタイルというものを伊那市から提案していく、これからの地域づくり、人づくりなどこの思いで進めていきたい。	
2、地域ブランディング事業について		
地域ブランディング事業について	○白鳥市長より ・地域ブランディング事業について、一緒に進めていくメンバーの皆さんが全員で理解していただくことが大事。 ・国の国土審議会に出席した。 ・地方には課題が山積していて、その課題解決には新産業技術の導入が必須になってくる。 ・同時に東京一極集中が進んできけるが国は解決に向けた具体的な手当はしないまま来ている。 ・このままでは本当に地方はどんどん小さくなってしまふ。 ・その中でも頑張っている地方自治体などの成功例も見えている。 ・国はその成功事例がどこの自治体の事例なのか知らないまま来ているため、その事例を拾い上げて「この課題だったらこんな事例がある」というような大会をしたらどうかという話をした。 ・もうひとつは森林に対する国の具体的な施策が遅れている。 ・森の活用についても実態や法整備などの必要性を訴えてきた。 ・5月に最終とりまとめをして国の国土に関する方向性を示すということなので、訴えた内容が盛り込まれていくことを願っている。 ・伊那市の住む方は比較的森が身近にある。 ・人類が森から離れていったことはごく最近であるが、森がいかに大事ということをご承知の通りだと思う。 ・伊那市の面積の8割は森であって、これをいかに活用していくか、50年のサイクルで循環させていこうとしているのが、伊那市の50年の森林ビジョン。	

	・その中で、フィンランドの北カレリア地域などと覚書を交わして、協力関係をつくっている。 ・森と生きること、学びながら生きるということは心豊かな時間でもあるし、これをベースにしていきたい。浸透させていきたい。 ・産業についても加工だけではなく、食品加工、食品工業、工学系、光系など色々な分野が多様に重なって非常に産業が強く成り立っている。 ・自分たちの食べるものは自分たちで生産をして、水ももちろん森林を手当てして安定的に関与していくとか、エネルギーの、再生可能エネルギーの町としてこの地域でできれば 100 パーセントまで持っていければ 1 番いい、そうした努力をし続けているということ、あと足りないところは人材教育である。次は教育や人材分野に力を入れていきたい。 ・人口についても大体 1 年間で 200 人ということで、かつていないほど増えている。この数字は伸びてきている。（社会増） ・移住者が増えている理由として、教育移住もあれば、農業したい、林業したいなど色々あるが、最近の傾向として、安心して暮らせる持続可能な地域だということ。 ・これからの伊那市の向かうべき方向というのは、森と生きる、それから人材育成、そんなことが繋がっていくと思っている。	
3、キックオフイベントの振り返り		
全体振り返り	○WG メンバー ・市民の方に新しいまちづくりが始まるのだというのを伝えるということでキックオフイベントを実施した。 ・報告書を市 HP で公開予定のため、準備を進めている。	・次回開催の際は、事前に振り返りの様式を決めておく。
(1) まちなかエリア高度化		
各 WG のメインまたはサブファシリテーターからの振り返り	○WG メンバー ・ワールドカフェ形式で実施した。 ・各テーブルの対話がユニークであったり、逆に似たような内容であったり、様々だった。 ・キーワードとして下記が出てきた。 ―古いものが魅力的 ―一人との繋がり、繋がる場所	

- ・ どういった技術を活用していくか市と認識を合わせたい。

	・例えば経験ベースで個人の話がじっくり聞けるような場をもう少し持てたらよかったのかもしれない。 ○WG メンバー ・アンケートでもそういった声があった。 ・他にも、すごいいい時間だった、楽しかったっていう声が本当に多く、皆さん満足して帰っていただけた様子が分かる。 ○WG メンバー ・短時間だったので、どんなところに気が付けばいいかなという気持ちだった。 ・参加者がファシリテーターというかイノベーター予備軍の方がたくさんいた。 ・そういった人が増える中で、核となるものをこの繋がりを確認して参加する人口が増えるということが持続可能なまちづくりになっていくと思う。 ・自分はまちなかに住んでいない人間でまちなかにいなくても生活できる。その中でも行けば価値や学びがあって、そういった人たちを増やしたい。 ・今後、テーマやエリアを絞らなくても持続可能な伊那市みたいなところに繋げて行けるのではないかと思う。 ○WG メンバー ・いなまちに住んでいない方がどんなものがあたらまちに来たくなるのか、そんな方の意見を聞ける機会あったら嬉しい。 ○WG メンバー ・ファシリテーションの経験があるわけではなかったが、参加者の方からフォローも多くすごく助けられた。 ・対話の中では「中心市街地」や「中心」という言葉が嫌だ、中心ってなんだろうみたいな意見があった。 ・その中で伊那市の魅力を聞くと中心市街地外の魅力が沢山出てきた。 ・とわいえ、まちなかエリアに情報も人も集まっていて、なんだかんだ来るよね、っていう話もあった。 ・今後、対話を続けていくと今までもあったように、こんなプロジェクトやりたいっていう人が出てきて仲間がこう繋がって、立ち上げるのはこれまででできた流れだと思う。 ・その中で、この新しいまちづくりが、プロセス自体が新しいから、そこから出てくるものが今までと似	・経験ベースの話をじっくり聴ける場があってもよい。
--	--	---

	たようなもので良いのか、今後考えながら進めていけたらと思う。 ○WG メンバー ・山寺から西町まで中心市街地の話はあるが、空間や場でどういったことが発揮できるのかという発想がとっても大事。 ・現時点では今このプロセスが新しいから、今まで話されていたことだけど続けてみようっていうフェーズでいいのではないかと思う。 ○WG メンバー ・ファシリテーションは初めての経験だった。 ・自分にはすこし難しく出てきた意見をテーマごとまとめたり、さらに深掘したり、さらに上乘せするような発言ができなかったのが反省点だった。 ・対話の中で、それぞれのまちの関わり方によってすごく色々な考え方があることを実感して、今後どんなふうにまとめていくかも関わり方によって異なってくることを実感した。	
(2) 伊那弥生ヶ丘高校将来活用 WG		
各 WG のメイン またはサブファシリテーターからの振り返り	○WG メンバー ・今回の目的は集まってくださった皆さんと思いを共有するのが最大の目的だった。 ① 今まで知り得た情報を共有する時間 ② 参加者の思いを紙に書いていただく ③ テーマ別に分かれて思いの共有 ・話足りないという部分もあって、もっと話したいという感想もあった。 ・学びの場や社会的弱者の方に日々立ち寄れる場、暮らしと仕事と学びが同じ場所で体験できること自体が伊那市の魅力なことから、そういった暮らしと学びと仕事が離れないような場であってほしい生涯にわたって学び続ける場になってほしいというのが場にいたほとんどの人の意見だったかと思う。 ・今後のプレゼンについては、来年（令和8年度）の3月に県に対してプレゼンを行っていく。 ・そのプレゼン資料作成のために色々な勉強会を重ねてくことを話した。 ・今回参加してくださった方や参加してくださらなかった方も含めて市民によるプレゼン大会を実施したいと思っている。 ・そのためにも地域のプレイヤーの方をお呼びして勉強会を行っていきたい。	

	○WG メンバー ・最初に理想を話し、次に現実的なところを話した。 ・比較的課題を明確にしてお伝えでき、皆さん受け止めてくださった。 ・逆にまちなかエリアのように前提から話合うことができなかったのも、そこは勉強会等で掘り下げていけたらと思う。 ○WG メンバー ・学びのグループをファシリテートしたが、本当に色々な属性の方がいらしかった。 ・今までの弥生の在り方やこれから作っていくもの、2つの軸があって、共に学びあいながら実際の提案に進めていきたい。 ・プロセス自体が学びの場であるというか、実際に動いていくような人の機運が高まる場になればいいと思う。 ・ファシリテーターは意見を集約したり、まとめたり、引き出したりといった訳ありもある中で、ジェネレーターというような同じ目線にたって何かをこう生成していく方法もあるのかなと思う。 ○WG メンバー ・理想的な話と実際の課題として現実的な部分話をしていたのは事務局側としてはとても助かった。 ・想定以上の人に集まっていただき、進行の不安もあったが大塚さんがすごく上手にファシリテートしてくださり、とてもありがたかった。 ・思いを共有する場面では声の大きい方がいらしゃると中々小さい方は発言しにくかったり、難しさがあったりした。 ○WG メンバー ・感想はもちろんだが、アンケートを見るとこうワクワク感を感じさせるような内容のものが多く、今後は間をあげずにやった方がいいと思う。 ○WG メンバー ・イベントが終わった後も話し続ける参加者もいて、もうこちら側のマインドになっていた。	・前提から話し合う場を勉強会等で掘り下げていきたい。 ・ファシリテーターとしてではなく、ジェネレーターとして関わる。 (ジェネレーターとは主体的に一緒に参加して、主観的なアイデアを出して住民を巻き込んでいく。)
(3) 伊那北駅周辺再生化 WG		
各 WG のメインまたはサブファシリテーターからの振り返り	○WG メンバー ・会の進め方 ① 情報共有・WG の説明 ② 伊那北駅前の広場の活用例	

	③ 優健事業の説明 ④ グループワーク・全体共有 最後にギャップ埋めるためにどういったアクションを起こしたらよいか話せる場を設けた。 ・全体としては割と和やかに進んだような印象であった。 ・JR・優建・駅前広場など情報がまだはっきりしていない現状があって大きく決まっている枠組みしかお伝えできなかった。 ・そのため、最後に質問でどこに焦点があるか分からないというお声をいただいた。 ・全体としてはその高校生・まちづくり・その展望・未来に対する明るい話など割と大きくあった。 ・一方でアンケートをみると、高校生だけではなく、まちにはいろんな世代の方が住んでいて、多世代の人に対しても考えるまちづくりにしたほうがいいのかという意見もあった。 ・実際参加された方の声として、情報量が少ないというような印象をもってそれを共有しないと対話の場にならないのではないかという意見もあった。 ○WG メンバー ・要望・要求に近い話も出ていた。 ・形にならないなら話す意味がないという質問もあった。 ・1 番難しいテーマだと感じた。 ○WG メンバー ・優健事業者さんから説明があったが、詳細については語られなかった。 ・色々な人が別々の目的をもってこの場にきてしまったみたい印象を受けた。 ○WG メンバー ・緩いテーマの範囲っていうのをどう見せるかということが大事かもしれない。 ・そのためにはもう少し具体的なコンセプトページがあってもよかったと思う。 ・施設は何も解決することはできない。そこの営みをどう工夫するかが、国交省や民間ではエリアマネジメントなどの話があるが実際には誰がどういった人が生まれるのかというのは私たちが本当に考えていかなければならないテーマである。 ○WG メンバー ・我々のグループの目的は地元の人たちのガス抜き場ではないということ、参加者全員がまちづくりに	
--	--	--

	参加できるということを知ってもらいたいということがあった。 ・フランセ板屋さんから若者がまちに集まることで周りの雰囲気や生活が変わったという意見もあり、若者が集まることで新しいまちができるという考えで会話が進んでいった。 ・今後分かりやすい形で話を進めていく必要があるかと思う。 ○WG メンバー ・フランセ板屋さんのお話からポジティブにお話が進んでよかったが、誰にとってどんな街であるかという話で絞っていったらいいかという気がする。 ○WG メンバー ・既に動き始めている事業だからこそ進めた方が他のWG と異なるところもあるが、どうしても要望的な声が多くなっているという印象を受けた。 ・今後、論点を絞っていくことが大事だと感じていて、どういった場所や空間にしたいかというところを話していきたい。 ・対話の中で話がまちなかエリア高度化 WG よりの話もあったのでその場合は、ある程度線引きするか連携を取って進めていきたい。 ○WG メンバー ・この場はオープンイノベーションであると思う。 ・今までの組織や事業者が自分たちの中で完結するのではなく、ユーザーもパートナーの方も一緒に対話の場に入り話し合っ作っていくことをする必要はある。 ・今後の進め方についてはじっくり検討する必要あるし、どんなスタンスで進めるかも考えた方がよいと思う。 ○WG メンバー ・結論的なものが当然でないのはわかっていたが、あまりにも色々なところに話が及んで、これをまとめることはできるのかなという印象を受けた。 ・どう時間と場所を切り取ってこの両面から考えていくことが今の課題だと思っている。 ○WG メンバー ・暮らしている人の意見を無視するわけにはいかないが、どこかへ向かって新しい何かをつくっていかなければならない。 ・そのために僕らはどんな立場で議論の場を整えるかという話をもう少しできたらと思う。	・施設ではなく、その場所での営みを工夫する。 ・オープンイノベーションであること。
--	--	--

事務局より	○WG メンバー ・アンケート結果を見る限りスタートのイベントとしてはとてもよかったと思う。 ・伊那北駅前話は具体的な事業の話で、JR との話もかなり進んできているため、たたき台として皆さんに見ていただいて、意見をいただき、そこからまた発想が広がるというように持っていければいいかと思う。 ・伊那北駅周辺再生 WG のアンケートをみて少し安心した。 ○事務局より ・当初の申込以上の方にご参加いただいた。 ・3つのグループの雰囲気を見て、終わったあとも話が続いているような様子から繋がりが生まれていて、そういうようなことが少しずつこういった場で広がってまちづくりになるのかなと感じた。 ・勉強会については講師の方やそういった方に対しては謝礼を出せることができるためご相談いただければと思う。 ○WG メンバー ・参加者にとってメインファシリテーターをきちんと位置付けていかないと、皆さんもやりにくいのではないかと思う。 ・今日話したように課題を話すにしても、全員で話しても難しいため工夫が必要かなと思う。 ・特に学生については彼らが本当にどういった話をしたいのか、なかなか大人がいると本音をいうのが難しい。ちゃんと引き出せる場って言うものが必要かなということは課題に感じる。 ○WG メンバー ・今後を本当にちゃんと考えていかなければならないと思う。 ・色々な話題が出たが、集約しても今までと一緒だよねっていうところをどう集約させるか、今後の進行によって事務局側でも議論していただく必要があると思う。 ・もう一回同じような議論をしていると、人は離れていってしまうと思うので、どのくらいのスパンで何回、どんな感じで進めていくかっていうのが実行できて初めて「新しい」と言えると思う。 ・ワーキンググループで話してもいいが、なんかどうしてもこう全体の動きと合わせると止まってしまうことも多く、困るなっていうことを感じる。	
-------	--	--

	○WG メンバー ・まちづくりの向かう方向性については、非常に緩やかなものは共有されているが、さらに詳細については事務局含めてコアメンバーで濃く話す機会があってもよいと思う。 ・報告をいち早くオープンにして、2 回目の議論をどんなものにするか、今後具体的に皆さんと議論していきたいと思う。	
4、その他		
SNS の運用について	○事務局より ・SNS の運用（Instagram / Facebook）を検討している。 ・運用について詳細を詰めていき、今後ご案内できるようにしたい。	
5、今後のスケジュール		
	・2/21(金)までに各 WG の今後の進め方について、まとめて提出する。 ・その後、コアメンバーやファシリテーター＋αでお願いしたい人と事務局で集まって議論を詰めていく。	・キックオフイベントの一カ月後を目安に次のアクションを見せるようにする。